

# 銀の道 探訪マップ ⑫



笠岡市東迫

## 福山市神辺町く 笠岡市本町編

石州道は、神辺町の国分寺付近で山陽道と出会う。銀の道ルートは、ここからいくつかのコースが考えられる。古文書では、井原市高屋まで銀が運ばれていたという記述が残っている。このマップでは、山陽道との交差点を直進して、福山市坪生を経て笠岡に入るコース、山寄りの道を進み、高屋から南へ下り笠岡に向かうコースをとりあげた。これら二つのコース上にも、辻堂や常夜灯など、古道の要素が多く見られる。

- この区間の主な見どころ
- ・万能倉の道標
  - ・福山藩番所跡
  - ・国分寺
  - ・石州道の道標
  - ・康塾
  - ・菅茶山記念館
  - ・神辺本陣
  - ・藩境の石
  - ・地神さん
  - ・高屋の町並み
  - ・中国地方の子守唄発祥地
  - ・坪生の番所跡
  - ・嫁いらず観音
  - ・坪生の古道
  - ・茶店跡
  - ・坪生の古道
  - ・銀山西の堂
  - ・地神の五角石柱
  - ・井戸平左衛門墓所
  - ・笠岡代官所跡
  - ・カプトガニ博物館



## 中国地方の子守唄発祥の地

「ねんねこしゃりませ」の子守歌は、昔から高屋地域で歌われてきた。この歌を聞きながら育った若き音楽家上野耐之は、昭和三年、当時国内では大作曲家であった山田耕筰のもとを訪れ、この歌を披露した。山田耕筰は「中国地方の子守唄」と題して発表した。間もなくイタリアに留学した上野耐之は、ミラノ放送局を通じて「日本の子守唄」としてこの曲を紹介し、やがて日本全国に知られ評判となった。



中国地方の子守唄発祥地

## おつぼうさん



坪生の五輪塔

石州道が山陽自動車道と交わる場所から、自動車道に沿って西へ五〇〇メートルばかり進んだ所に、「おつぼうさん」と呼ばれる五輪塔の墓が残されている。これは平安後期から鎌倉時代にかけて、坪生盆地を開墾し経営した坪生氏代々の墓と伝えられるが、地方豪族にしては規模が小さく、主な石塔はいずれかの地に移したのではないかと考えられる。「坪生村郷土史」には『坪生の地頭職の墓ならん』と記されている。鎌倉時代の様式を示す石塔群は、貴重である。



威徳寺

## 井戸平左衛門

石見代官として活躍した井戸平左衛門は、大森から遠く離れた笠岡の地で亡くなっている。彼が死亡した原因としては、二つの説がある。一つは、飢饉に際して幕府の許可を待たず、代官所の米蔵を開いて人々に米を配ったため、その責任を問われて切腹したというもの。もう一つは、平左衛門は六〇歳で代官に任命され、わずか二年の在任期間だったが、その激務がたたって病死したという説。一般的には病死説が有力とされている。彼の墓は笠岡市内の威徳寺の境内にあり、大切に管理されている。



銀山地区の古道

## カプトガニ

カプトガニは、2億年前から変わらぬ姿で現在も生き続けており、「生き化石」といわれている。笠岡湾は、日本で唯一のカプトガニ繁殖地として、国の天然記念物に指定されている。



カプトガニの繁殖地



カプトガニ博物館内の展示

笠岡には、カプトガニの生息に必要な産卵のための砂浜と、幼生の生息する干潟が残っており、毎年産卵の季節になると、今なおその姿を見ることが出来る。またここでは、古くから市民による調査・飼育・清掃活動など、地域をあげたカプトガニの保護活動が取り組まれている。笠岡湾のほど近くに、笠岡市立カプトガニ博物館があり、カプトガニの生態などを学ぶことができる。



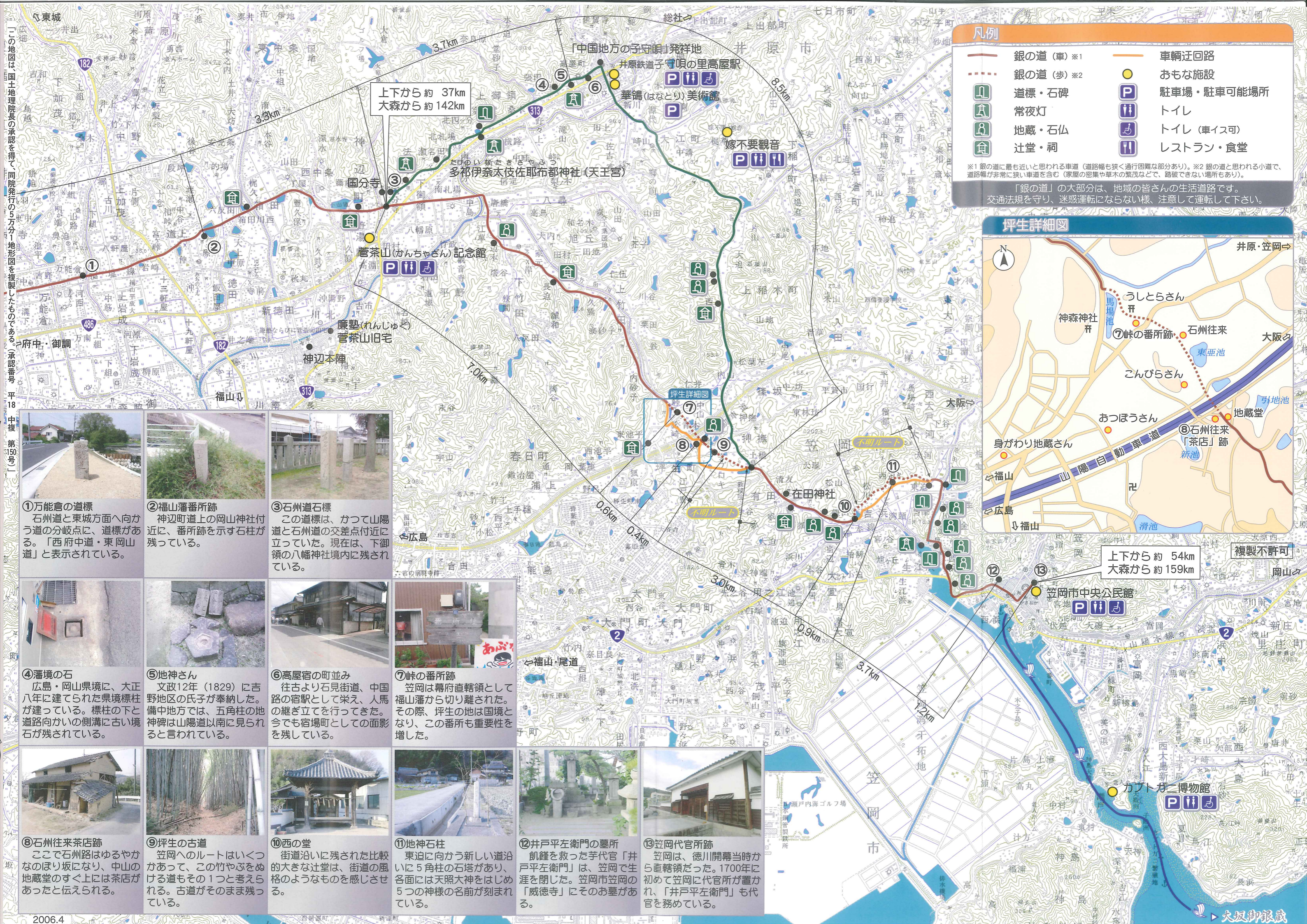
カプトガニ博物館

### 主な連絡先

- 福山市神辺支所 084-962-5000
- 井原市役所 0866-62-9500
- 笠岡市役所 0865-69-2121
- 井原線沿線観光連盟 0866-62-8850
- 菅茶山記念館 084-963-1885
- カプトガニ博物館 0865-67-2477

### 銀の道関連ホームページ

みち紀行 防府から井原へ 井原  
<http://www.chugoku-np.co.jp/tokusyuu/mitikikou/m020915.html>



凡例			
	銀の道(車)※1		車輛迂回路
	銀の道(歩)※2		おもな施設
	道標・石碑		駐車場・駐車可能場所
	常夜灯		トイレ
	地蔵・石仏		トイレ(車イス可)
	辻堂・祠		レストラン・食堂

※1 銀の道に最も近いと思われる車道(道路幅も狭く通行困難な部分あり)。※2 銀の道と思われる小道で道路幅が非常に狭い車道を含む(家屋の密集や草木の繁茂などで、踏破できない場所もあり)。  
「銀の道」の大部分は、地域の皆さんの生活道路です。  
交通法規を守り、迷惑運転にならない様、注意して運転して下さい。



① 万能倉の道標  
石州道と東城方面へ向かう道の分岐点に、道標がある。「西府中道・東岡山道」と表示されている。

② 福山藩番所跡  
神辺町道上の岡山神社付近に、番所跡を示す石柱が残っている。

③ 石州道石標  
この道標は、かつて山陽道と石州道の交差点付近に立っていた。現在は、下御領の八幡神社境内に残されている。



④ 藩境の石  
広島・岡山県境に、大正八年に建てられた県境標柱が建っている。標柱の下と道路向かいの側溝に古い境石が残されている。

⑤ 地神さん  
文政12年(1829)に吉野地区の氏子が奉納した。備中地方では、五角柱の地神碑は山陽道以南に見られると言われている。

⑥ 高屋宿の町並み  
往古より石見街道、中国路の宿駅として栄え、人馬の継ぎ立てを行ってきた。今でも宿場町としての面影を残している。

⑦ 峠の番所跡  
笠岡は幕府直轄領として福山藩から切り離された。その際、坪生の地は国境となり、この番所も重要性を増した。



⑧ 石州往来茶店跡  
ここで石州路はゆるやかなのぼり坂になり、中山の地蔵堂のすぐ上には茶店があったと伝えられる。

⑨ 坪生の古道  
笠岡へのルートはいくつかあって、この竹やぶをめぐる道もその1つと考えられる。古道がそのまま残っている。

⑩ 西の堂  
街道沿いに残された比較的大きな辻堂は、街道の風格のようなものを感じさせる。

⑪ 地神石柱  
東迫に向かう新しい道沿いに五角柱の石塔があり、各面には天照大神をはじめ5つの神様の名前が刻まれている。

⑫ 井戸平左衛門の墓所  
飢饉を救った芋代官「井戸平左衛門」は、笠岡で生涯を閉じた。笠岡市笠岡の「威徳寺」にそのお墓がある。

⑬ 笠岡代官所跡  
笠岡は、徳川開幕当時から直轄領だった。1700年に初めて笠岡に代官所が置かれ、「井戸平左衛門」も代官を務めている。